

■授業概要の中で引用または言及したもの

- * 吉田兼好『徒然草』（14世紀前半に成立）第十三段：西岡実・安良岡康作校注『新訂徒然草』岩波文庫、第70刷改版、1985（36ページから抜粋）
- * 本文と読み手の間に読む流れを妨げるようなものは置かないという消極的な作業原則：
Morison, Stanley. *First Principles of Typography*, Cambridge: Cambridge University Press, second edition, 1967
今井直一『書物と活字』印刷学会出版部、1949 など
- * マラルメの詩作：Mallarmé, Stéphane. *Un coup de dés jamais n'abolira le hasard* [épreuves d'imprimerie], Paris: Ambroise Volland, 1897
(*un coup de dés* とは「ひとつりで出たサイコロの目」(偶然の結果)。サイコロ賭博を踏まえているので、文全体としては「ひとつりのサイコロの目で決して運が尽きるものではないだろう」といったニュアンスか。詩の全体は偶然に支配されている世界の中での人間の思想のあり方、詩のあり方として読まれてきた。『骰子一擲《とうしいってき》』『賽の一振り』というタイトルで鈴木信太郎 [『マラルメ詩集』岩波文庫、初版1963]、秋山澄夫 [『骰子一擲』思潮社、改訂版1984、改訂新装縮刷版1991]、加藤美雄 [『マラルメ詩集』関西大学出版部、1987]、柏倉康夫 [『賽の一振りは断じて偶然を廃することはないだろう』行路社、2009]、松室三郎・菅野昭正・清水徹・阿部良雄・渡辺守章 [『マラルメ全集 I』筑摩書房、2010] などの日本語訳がある)
- 最初は雑誌 *Cosmopolis* 1894年5月号に掲載された。1896年、Ambroise Volland が特注の単行本化を企画したが出版には至らず、1897年段階の校正紙のみが残る。マラルメ自身の書き込みがあり、詩人の意図した活字書体と組み方が残っている可能性が高い。本人没後の1914年に刊行された NRF 版は書体も組み方も異なる。おそらく仕上がりはタブロイド判の新聞程度の大きさと思われ、譜面のように見開きで組み方を設計している。2012年から複数の校正紙の画像データがフランス国立図書館の Gallica で公開されている：
<http://gallica.bnf.fr/ark:/12148/btv1b8625644w.r=Un+coup+de+dés+jamais+n%27abolira+le+hasard.langFR>
<http://gallica.bnf.fr/ark:/12148/btv1b86256459.r=Un+coup+de+dés+jamais+n%27abolira+le+hasard.langFR>
- * 家辺勝文『デジタルテキストの技法』ひつじ書房、1998（pp. 93-95 を参照）

■今回のテーマに関連して視野を広げるために読むことをおすすめしたい図書

▼ヨーロッパのルネサンスと印刷・出版の歴史について

- * アレッサンドロ・マルツォ・マーニョ著／清水由貴子訳『そのとき、本が生まれた』柏書房、2013
- * スティーヴン・グリーンブラット著／河野純治訳『一四一七年、その一冊がすべてを変えた』柏書房、2012
- * Kinross, Robin. *Modern Typography*, London: Hyphen Press, 1992; second edition, 2004

▼日本の近世における印刷・出版と読書について

- * 今田洋三『江戸の本屋さん：近世文化史の側面』平凡社ライブラリー、2009
- * 鈴木俊幸『江戸の読書熱：自学する読者と書籍流通』平凡社、2007

▼印刷における可読性について

- * サイラス・ハイスミス著／小林章監修・田代眞理訳『欧文タイポグラフィの基本』グラフィック社、2014
- * Garfield, Simon. *Just My Type: A Book about Fonts*, London: Profile Books, 2010; paperback edition, 2011

▼書物と読書の関係について

- * ロジェ・シャルチエ著／長谷川輝夫訳『書物の秩序』ちくま学芸文庫、2000